

管渠内の不純物排出

シャーベット状氷流し込み洗浄 尼崎市でデモ施工 東亜グラウト工業

東亜グラウト工業(東京都新宿区、大岡南三社)は13日、シャーベット状の氷を流し込むことで管渠内にたまった赤さびや不純物などを取り除ける「アイスピック管内洗浄工法」のデモ施工を兵庫県尼崎市の下水処理場で行った。従来の工法と違い管外に不純物などを排出できるのが特長。環境にも影響がない。デモ

施工では圧送管へのアイスシャーベット注入から不純物を回収するまでの工程を実演した。管内洗浄に使ったアイスシャーベットの氷の割合は7〜8割程度。専用の機械で数時間かけて製氷する。管内に一定の圧力をかけることで赤さびや不純物をシャーベットが包み込み、これまで除去が難しかった伏越管も

洗浄できる。水と塩を材料にしていることから無害で環境に優しく、シャーベットのため、管内で詰まることがない。作業時間が短いことも特長の一つという。

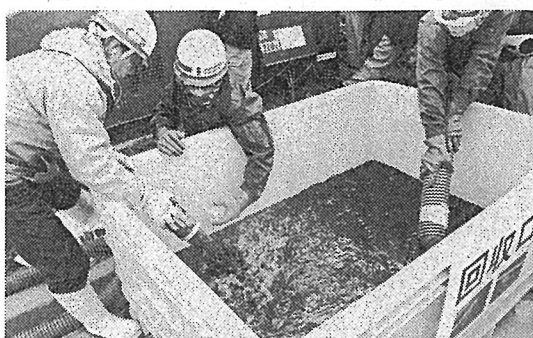
適用条件は管径400ミリ以下の圧送管で洗浄距離が400メートルから2キロまで。シャーベットの投入と回収を行うための空気弁や消火栓などがあることなど。

デモ施工には、兵庫県や神戸市の職員ら約70人が参加。兵庫東流域下水汚泥広域処理場につながる武庫川2号管(管径200センチ)のうち敷地内に敷設している173区間で行われた。

東亜グラウト工業の担当者らが工法の概要を説明した後、注入口で保冷特殊車両に積まれたアイス



注入前のアイスシャーベット



不純物とともに回収

シャーベットを管内に注入する様子を見学し、回収口では真っ黒に濁ったシャーベットが不純物とともに排出される様子を確認した。

アイスピック管内洗浄工業展開。10年に東亜グラウト工業が日本での専用実施権を取得し、英国から製氷機を導入した。今年9月には「アイスピック研究会」が発足し、同工法の普及活動を始めている。

きょうの紙面から

③アイスシャーベットで管内洗浄

東亜グラウト工業は、シャーベット状の氷を使った管内洗浄工法のデモ施工を兵庫県尼崎市の下水処理場で行った。英国から技術導入した工法で、管内の赤さびや不純物をシャーベットが包み込み、これまで洗浄が難しかった伏越管にも適用できるのが特徴。

(1) 日刊(土・日曜、祝日休刊) (昭和3年7月19日第3種郵便)